

# 選挙「節約度」チェック

## 川口市議選の候補 オンブズマン調査



選挙カーではなく、「自転車に拡声機」という手法で臨んだ候補者もいた市議選—昨年4月、川口市

昨年の川口市議選と同増員選について、「川口市民オンブズマン」（村松幹雄代表）が、公費負担の上限額に対する各候補者の支出比率を「節約度」としてまとめ、公表した。公費負担を求めた56人の平均は63%で、ポスター製作費は2007年の市議選と比べ、上限額での請求者が15人から3人に減ったという。

市議選の運動費は、法定得票数に達した候補者に対して、ポスター製作費、選挙力借り入れ費、燃料費、運転手雇用費が各上限額の範囲内

で公費負担される。同団体がこの4項目すべてを調べたのは初めてで、調査結果によると、56人のうち10人が上限総額の80%を超える

## 1位の市議 ポスター製作で工夫

請求をしていた。項目別に見ると、上限額で請求していたのは、選挙カー借り入れ費が17人で、運転手雇用費が38人。一方、これに燃料費を含めた3項目での「請求なし」が5人いた。

節約度が18・65%で「1位」とされた唐沢義達議員（62）は、川口みらい、3期目は、ポスター単価が特に安かった。「デザインなど印刷の前段階までは自前。必要なのは（告示後の）1週間なので、表面加工もしていない」と節約のこつを披露した。

村松代表は「候補者は公費負担がある選挙費用について、必要最小限に抑える努力が必要だ」と指摘。市に対しても「ポスターは市場価格より高い単価を上限とし、さらに掲示場の2倍の枚数分まで支出している。無駄を省くため、制度自体の改善を」と求めている。

（伊藤典俊）